

## 待降節第3主日の説教

金 大烈 神父 2010年12月12日(日)

### 《つまづかない人は幸せ》

主の平和！

牢に入っていた洗礼者ヨハネは自分の弟子達をイエスの所へ送って尋ねさせました。“あなたが、私達が待ち望んで来た人でしょうか？ それとも別の人を待たなければならないのでしょうか？” イエス様はその質問に“見聞きしている事をヨハネに伝えなさい”(マタイ 11.4)と答えました。この箇所では私達は考えていただきたい事があります。私達は目で判断する事が多いです。実際にイエス様の姿も特別な容姿では無く、普通の人とあまり変わりませんでした。ですから人々はイエス様が本当に待ち望んだメシアであるかどうかをわきまえる基準を求めました。それで、イエス様は仰います。“あなたがたが見た事、聞いた事を伝えなさい。目の見えない人、足の不自由な人、ライ病にかかっている人、耳が聞こえない人が癒される事それだけではなく亡くなった人が生きかえる事、あなたがたが見た事それをそのまま伝えなさい。わたしにつまづかない人は幸いである”と。私達の目は汚れているかもしれません。一つの物をいろいろな人が見て違う感じ方をします。そして自分で感じた事が全てであると強く主張します。自分が見た事と違う感じ方をしている人がいれば、その人を責めようとしています。

皆様、人間の体の細胞はどの位あると思われませんか？ 一人の人間の身体は60兆位の細胞によってなっているんだそうです。その中で、毎日4億個の細胞が死んで、また新しく産まれて来るんだそうです。私達の身体の中では毎日その繰り返しがあって生きていくこととなります。もしこの反復の変化が無ければ何年にも行かずに命が終わってしまうでしょう。今、皆様の身体の細胞には子供の時の細胞は一つも残っていないことを言えます。これからも毎日何億個かの細胞が死んだり、新たに出来たりしながら命を保つことになるんでしょう。勿論、年齢を重ねることによって新しい細胞の生成のスピードは徐々に遅くなってしまい生命体は老いることとなります。このような細胞の変化の働きは私達の目では見えません。

それでは、愛について考えて見ましょうか。私達が一目ぼれや外観的な好感を持つ事は心の動きではなく、細胞の化学的な反応だという話があります。そして、そのようなことによって人のことを愛していると言っても、即ち、見た目には魅力を感じて好意を持つことになってもその感情は長くても一年も行かないで冷めてしまうのが一般的な事だそうです。時間と共に外見的な魅力は薄くなるのは自然な人間の反応かもしれません。人々はよく愛に失敗します。何故でしょうか。初めは、愛しているからこの人の為になんでも出来ると思いますが、段々想いが薄くなって行きます。その理由は何でしょうか。では、愛に成功する方法は何でしょうか？ それは、人の見た目ではなく心で見たその人自体を受け取らないと出来ないことです。身体が老けても自分が愛したことは肉塊ではなく相手自体を

愛すれば愛に成功するでしょう。それがなかなか出来ないのが私達人間なのです。

イエス様は弟子達をヨハネの所に帰します。ヨハネの所に戻った弟子達はイエスから言われた事をヨハネに伝えます。なぜ洗礼者ヨハネは弟子達にこのような質問をイエスにさせたのでしょうか？ 洗礼者ヨハネはイエス様に対して信頼感が無かったからでしょうか？ 預言者としての能力が無かったので、イエス様の正体を分らなかったのでしょうか？ いいえ、そうではありません。洗礼者ヨハネは自分の命がもうすぐ終わる事がわかっていました。しかし自分の弟子達がイエス様に対して信頼を持っていない事に心を痛めていました。彼は自分が去る前に弟子達とイエス様を出合わせて、かれらの目で確認して信頼してもらいたいという思いがあったのです。つまづかない人は幸せと言うことは疑わない人は幸せと言う事です。しかしそれはイエス様がヨハネに対してした話ではありません。

そして、ヨハネの弟子達が帰ってから、イエス様は群衆にこのような話をしました。「あなたがたは何を見に荒野に行ったのか風にそよぐ葦なのか」と。この言葉は今ミサに与っている皆様にも当てはまる質問にもなるのではありませんか。このミサに何故来たのでしょうか？ きれいな服を着ている隣の人を見に来たのでしょうか？ 会いたくない人が生きてるか死んでいるか確認しに来たのでしょうか？ この質問と福音のその質問は全く同じ質問です。「荒野にあなた達は何故集まって来たのか？ あなた達は預言者に会い悔い改めに来たのではないのか」とはっきりおっしゃったのです。

ミサにある人は健康の許しの願いの為、ある人は家族が経済的に余裕が出来るように等、願いの為に来ているかもしれません。しかしそのような変わる願いはその時だけで終わってしまいます。私達がミサに来る一番大きな目的はイエス様に会う為です。イエス様はヨハネの弟子達を受け取ったと思います。皆様はイエス様の弟子です。最後の晩餐でご自分の身体を食べさせ血を飲ませました。私がどの位あなたがた愛していたか、だからあなたがたも私が見せてきた全ての物について来なさい。イエス様の言葉を意識する事が私達信仰者の姿でしょう。もう一度聞きます。皆様なぜここに来たのでしょうか？ 風にそよぐ葦を見に来たのでしょうか。きれいな服を見に来たのでしょうか？ 委員会や行事に出る為でしょうか？ そうではありません。生と死にかかっている問題を解決する為に集まっています。ただ過ぎてしまうこの人生では無く、根本的にどこから来てどこに行くかを考えながらその答えを探す為に来ています。今日の福音を見てもう一度考えて見ましょう。難しさは誰にもいろいろあります。負けるかもしれません。しかし変わってしまう物は怖がらないでください。絶対に揺らぐずあきらめないで下さい。恐れるべき事はイエス様と皆様の関わりです。そのきずな自体を大切にすれば汚れた目を持っている限りがあっても、心で全てを見ようとするその恵みが与えられると思います。

ありがとうございました。